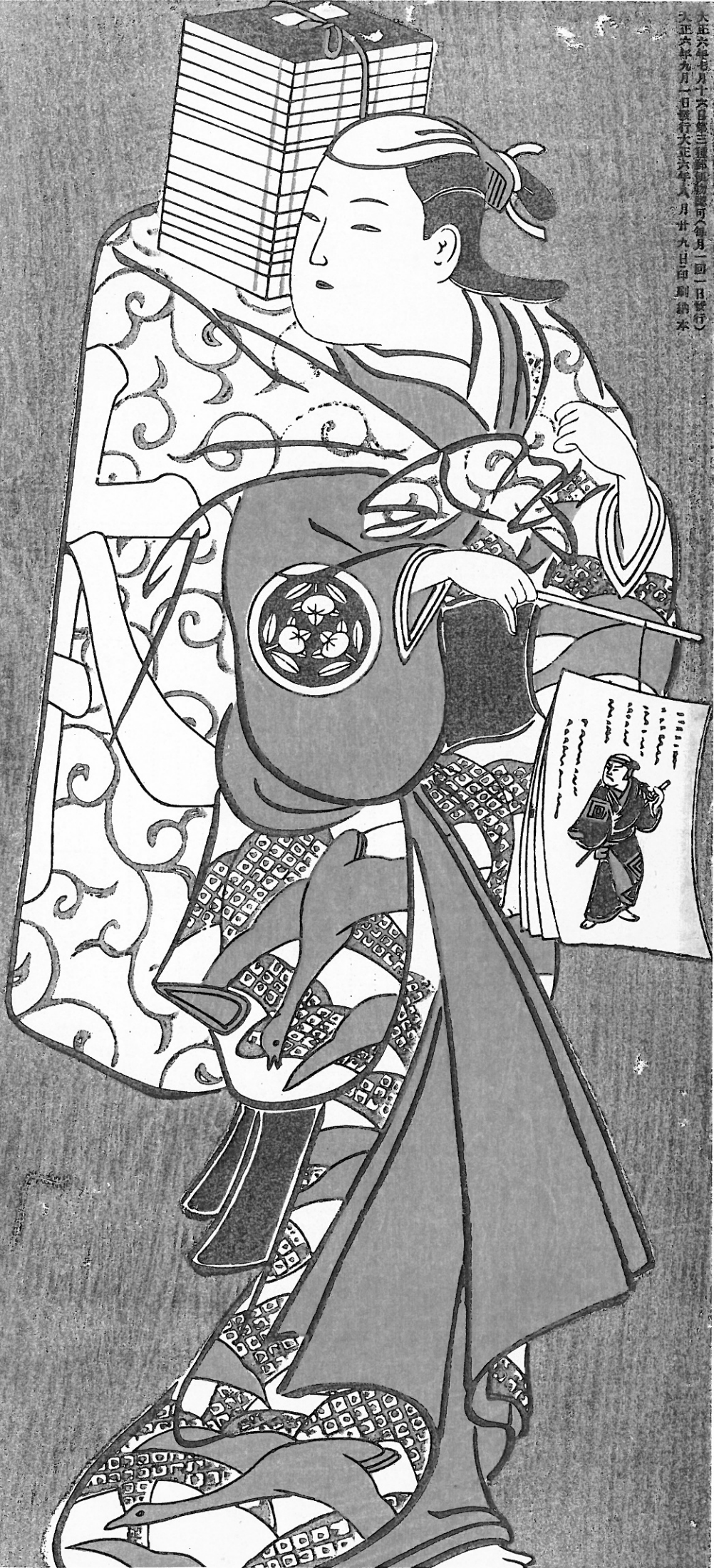


大正六年七月十六日第三種郵便物認可毎月一回一日發行
大正六年九月一日發行大正六年八月廿九日印刷納本



金糸

第六編

風俗繪卷
圖畫
刊行會

されば當時江戸に於て版行せられたるものは、歌舞伎狂言、淨瑠璃の筋書、又寛文頃松會、鱗形屋等より盛んに版行したる假名草紙(大形の)を小形の六段本風に改版したるもの等であつたが何時の頃よりか昔嘶のちも山、舌切雀、嫁入狐等の古き嘶を紙數僅に五枚の繪双紙に綴り、之に丹表紙を掛けたるより、俗に之を赤本と稱して、小供の翫弄となり、次で丹表紙が墨表紙に變つて、之を黒本と稱し、昔嘶も種切となつたから、再び歌舞伎淨瑠璃の筋や、又英雄豪傑の一代記を此繪双紙に綴るに至り、一時流行した六段本風の繪入讀本は、其お株を黒本に奪はれて、其黒本は殆ど鳥居一派の獨占する所となつたから、繪双紙といへば黒本、畫工といへば鳥居の外に、又何物も認めないやうになつた。享保の中頃から、安永まで、約四十年間、これが鳥居派の全盛期である。しかし時代の潮流に掉し、思ふが儘に其畫風を行つた爲に、外界の刺激を受けず、研究をする事もなく、徒らに古風を守つたのであるから、元祿の豪放な氣分はなくて、唯線の太い所や無器用な形骸だけが存して、其精神は全く失せて了つたのは遺憾である。されば戀川春町が出なくても、鳥居派は既に退却の時節が到來してゐたのである。

既に八代將軍の治蹟も二十年續いては、流石の善政も漸く縮が緩み殊に權臣佞者が蔓つて風教は萎靡し、奢侈はますます増長して元祿に一層輪をかけたやうな放縱時代を現出して浮世繪は再び頭を擡ぐるに至つた。寶曆に至り鈴木春信が其細腰は風に柳の靡くが如き美人を畫きはじめ、湖龍齋、文調、春章等の名手次いで輩出し、茲に浮世繪畫風一變するに當り、清長、清經等の鳥居派も、亦新しき潮流に逆行する能はずして漸次流行を追ふに至り、また鳥居派の古風を談ずるものがなくなつた(完)



『おもちゃ繪』に就いて

權田保之助

おもちゃ繪も此頃では決して馬鹿に出来なくなりました。私達が一頃夢中になつて蒐めました時分には品が多く従つて價も安くつて、しかも少しく汚れたものは(おもちゃ繪は手通りに子供の手遊びに使用されたもの)から兎角汚れて居勝ちなものです。どしどしはれて仕舞つたものでした。所が此頃では其の様な選り好みなぞしてはゐられなくなりました。近頃ある懸念な繪屋さんで一寸値段を聞いて見ました所が、餘り値が違ふので「算盤の桁が違ふのぢやありませんか」と申しますと、「はい、え決して。これでも對君だから奮發して置いたので」と云はれて少々呆れました。これも要するに世の中に「おもちゃ繪」に對する趣味が湧き出して、これを愛する人が多くなつた反映であると思ひまして、嬉しいことだと感ぜずには居られませんでした。

■『おもちゃ繪』とは何

『おもちゃ繪』と申しますと、極めて簡單で直ぐ解る様に思はれます。「ハ、一あんな物を云ふのだな」と合點されませうが、然かし段々と實物に就いて觀察して参りますと、「これは果して『おもちゃ繪』と呼んで好いものかしら、それともそれに數え込んで悪いのかしら」といふ疑が起つて参ります。其處でどうしても其の範圍と云ふ様なことを定めて置き度いと存じます。

所で玩具なり子供の遊びなりを描いたもの、即ち子供に關係したものを主題とした繪は皆な『おもちゃ繪』だと考ふる人もある様ですが、それでは餘り廣すぎる様です。洒流た刷物なぞには随分玩具を材料とした面白いものが御座いますが、あれまでを『おもちゃ繪』に加える譯には行かない様です。これは其の繪の題材によつて範圍を確定しやうとした爲めに生じた間違でして、これにはどうしても其の繪を享樂する主體の如何によつて區別しなくてはならない様に思ひます。即ち其の題材としては如何なるものを取つて來ましたにしろ、其れを味ひ其

れを楽しむ主體が子供である、言ひ換へれば子供の爲めに書いたものであるといふのを私は『おもちゃ繪』の第一要素と致し度いと思ひます。それから次に同じく子供の爲めに書いたにしても、それがたつた一つ切りであると云ふ時にはおもちゃ繪とはなりません。おもちゃ繪とは純正美術と云ふ意味でなく何處までも應用美術、工藝美術と云ふ様な性質が含まれてゐるものです。即ち其の技術にしては大量生産による「版畫」の技術によるか、或は製造業の原則に従ふ「印刷畫」の技術によるかしたものかを云ふのであります。そして私達が普通に『おもちゃ繪』と呼んで居ますものは版畫の技術に訴えたものを云ふことになつて居ます。

ですから『おもちゃ繪』とは子供を享樂の主體とする版畫であるといふ様に定義をして置きませう。

■『おもちゃ繪』の種類

おもちゃ繪には非常に澤山の種類があります。何しろ子供を享樂の主體としたものでして、子供と云ふものが其の知識慾の旺盛な時代ですから、何にでも興味を覺えるのです。従つて其の繪の題材は殆んど無制限だと云つても宜敷い位で、其の爲めにおもちゃ繪に數限りのない種類が生ずる様になつたのであります。所が此の無数の種類を研究の便宜の爲めに其の描かれた材料を基として分類して見ますと次の様になります。

第一 現相界を描いたもの——これは現實生活の興味を子供に味はしむるといふ意味のもので極めて樂天的なものです。所がこの内には色々な種類があります。

(イ) 子供の世界を寫し出したもの。子供遊びの様子を描いたもので

「當世子供遊び」なぞいふ題で男の兒、女の兒の色々な遊びが描かれてゐます。

(ロ) 大人の世界を寫し出したもの。大人の世界と云ひましても凡てが凡べて子供の興味と同感とを喚び起すとは限りません。又男女の性によつても差があります。即ち男の兒が戶外生活に興味を持ち、其の中殊に團體的行動である「大名行列」「町火消」「火消の出初め」「祭禮」などを喜びますのと相應して、女の兒が室内生活に同感を有して「世帯づくし」「臺所道具」「お稽古」などを樂しむ様になつて居ます。

(ハ) 大人の世界を子供にて表はしたものの。大人の世界を大人で表はしたのではまだ子供の十分な同感を喚び起す譯に行かないものですが、これを凡べて子供で表はす様にしたものがこの類です。子供の火消しや大名や槍持や山車のお囃しなどを畫いたおもちゃ繪が澤山あるのです。

(ニ) 人間の實生活を動物もて代らしめたもの。子供は動物が非常に好きなのです。これを藉りて人間の生活を表はす時は一種の滑稽味と限りない親し味とが出て來ます。「猫のお湯屋」「獸物商人盡し」などいふものが即ちそれです。

(ホ) 新興の文明現象を寫し出したもの。子供は實際新らし物好きです。彼等には傳説もなければ舊い慣習もありません。ですから新らしい目に立つものは遠慮なく好みます。この子供の心理の一面面を捉へたおもちゃ繪には「汽車」「鐵道馬車」「馬車」「人力車」「自轉車」なぞいふ題材を取つたもの、近頃では「飛行機」「自動車」などを表はしたものが随分あります。

(ヘ) 「何々盡し」と云つて同種類のものを列擧したものの。これは子供

の概念的知識を整理する爲めのもので、一方知的教育の要素を含んでゐるものです。「蟲づくし」「動物づくし」「名馬盡し」「山車づくし」「樹木盡し」「面盡し」なぞいふのがそれです。これには唯だ其の様な知的教育以外に、滑稽を中心とした「何々盡し」なぞいふものも出来るやうになりました。

第二 假相界を描いたもの——子供は極めて空想的なものです、理想的なものです。これに應ずべく子供の理想を描き出し、子供の空想を喚び起さうといふ趣意のもので極めて空想的要素に富んだものです。これにも色々の種類があります。

(イ) 子供の理想界を表はしたものの。男の兒と女の兒とで違ひます。

男の兒のには人格的理想の對象としての英雄豪傑を表はした「武者繪」と肉體上の理想である剛力を示す「相撲繪」とがあります。し、女の兒のには自分等の理想生活と目すべき成年女子の生活を寫した「あねさま繪」と、男の兒の武者繪に對する「役者繪」とがあります。

(ロ) 童話を表はしたものの。桃太郎、カチ／＼山、猿蟹合戦なぞいふ童話を描いたもので話の外に一種の味が出てゐます。

(ハ) 芝居を表はしたものの。芝居に表はれた世界を子供の觀賞に適する様に翻譯したものでして、役者を皆な子供にしたり、又は動物で表はしたりなぞしたものとさへ澤山にあります。

(ニ) 全然繪師の空想を表はしたものの。この類はそれ程澤山にはありません。其の最も優れたものとして、又おもちゃ繪の最も渾熟したものとして私は芳藤の「ほうづき遊び」を選び度いと思ひます。

以上の現相界假相界とを現はしたものが實に『おもちゃ繪』の中堅と

なつてゐます。けれどもそれだけではありません。其の外に第二次的の『おもちゃ繪』があります。今それを數えて見ますと、

(一) 實用的意味が變じて『おもちゃ繪』となつたもの。これには「抱瘡繪」を數えることが出来ます。始めは惡鬼退散といふ實用的(?)の意味がありました。後には子供に親し味をつける爲めに其の題材に可愛らしいものを選ぶやうになりました。しかし色は當初の目的に適ふ様にと何處までも赤ばかりを使用してゐます。

(二) 風繪。實際に飛ばす風には書いた繪ではありません。其れに模した繪で一層技巧的なものです。

(三) 教訓繪。子供に人倫五常を教えやうといふ意味の繪です。おもちゃ繪としては兎角面白くなくなり勝ちのものです。ですから純教訓的の表はし方から段々遠ざかつて諷刺的のものとなり、遂には滑稽化して、仕舞には教訓の趣意が何處へか飛んで行つたものもあります。

(四) それを細工なぞして楽しむもの。これには「千代紙」「切組繪」「切組み細工」「切組み燈籠」なぞいふものがあります。中々面白い結構なものが多くあります。

(五) 繪を應用した玩具。これは純粹のおもちゃ繪とは申されませんが、いろいろの種類があります。「十六むさし」「目かつら」「福笑ひ」「雙六」「かげ繪」「判じ繪」なぞ其の主なものです。

(六) 俚謡を繪に描いたもの。一番多いのが「ちんわん節」の類です。外にも色々あります。尻取り文句を繪に描いたものなども澤山ありますが、どうも大人臭くて子供向きのものが少ないのが残念です。

(七) 辻占繪。辻占に出てゐる繪でして、これにも子供向きの好いものがあります。どうも大人の變な趣味に合しやうとする俗悪なのが

多くて困ります。

先づ大體右に掲げた様なことで『おもちゃ繪』の種類を擧げ盡せたと
思ひます。尙ほ其の各について夫々詳しい研究を致しますと、中々廣
く興味の深い範圍が御座います。それ等は何れ後日を期することに致
しませう。

■『おもちゃ繪』の歴史

歴史と申しますと大袈裟になりますが、其の發生と變遷と云ふ様な
ことを申しますと、先づそれが出来たのは何時頃でありましたら
うか、可なり古いことであつたと思ひます。けれど實際に『おもちゃ
繪』として世の中に一個の地位を占める様になりましたのは餘り古い
ことではないと思はれます。先づ安政前後だと思ひます。其の時分か
ら明治維新頃にかけて非常に發達し、維新少し前頃に其の頂點に達し
たものと思はれます。そして明治に入り社會狀態の變化、印刷術の變
遷、繪具の粗惡等の爲めに他の版畫と同様に凋落して仕舞ひました。
しかしこれは他の版畫と違ひまして其の成立、發達等が夫等より遅れ
て居りました様に、其の没落の時も遅れてゐました。即ち他の版畫よ
りも生命が長かつたのであります。それには色々の原因もありませう
が、他の浮世畫師が漸く墮落して行きました間に、おもちゃ繪には其
の天才である芳藤が居て、頽勢を支えて居ました事が其の最も大き
な原因であらうと考へます。しかし時代の心的併びに物的の變遷には
流石の芳藤も如何ともすることが出来ず、彼によつて大成された『お
もちや繪』は又彼と共に葬られて仕舞つたのであります。

■『おもちゃ繪』の筆者

其の初期には果して誰れが畫いたか不明です。初めには署名があり
ません。何と云つてもおもちゃ繪を多く畫いたのは國芳門下です。然

らば國芳自身はどうかと申しますと、子供遊びを寫したものは見ま
すが、所謂『おもちゃ繪』はどうか解りません。描いたといふ人もありま
すが、それも極く僅かであつたと思ひます。どうしても其の門下が多
いのでして芳虎、芳幾、芳員、芳艶、芳盛などがあり、芳藤も出て居
ります。其の外に國綱、國政、國郷、國利、艶丸などもよく見かけま
す。又二代目廣重が重宣時代、三代目廣重が重政時代のものにもい
物が間々あります。北齋が描いた湯屋の切組み燈籠は中々面白いもの
です。しかし何と云つても芳藤が第一人者です。其の製作の數に於て
も其の質に於ても彼の右に出づるものは能く一人もありません。

■芳藤のこと

芳藤に就いてはまだ其の詳しいことが解りません。國芳の門下で一
鳴齋と云つてゐました。初期には普通の浮世繪師と同じく美人畫を描
いてゐました。其の時代の彼の畫は構圖も何となく間が抜けて、色も
何處か沈んでゐました。師の國芳とは殆んど正反對と思はれる様な溢
い沈んだ色彩を選んでゐたのです。しかし決して下手ではありませ
んでした。江戸つ子の溢い所がよく表はされて、見てゐる中に引き入れ
られる様な氣持になります。けれど彼の繪は餘り喜ばれなかつたもの
と見えます。所が「芳藤」と署名してゐた彼が「よし藤」とやさしく署し
て「おもちゃ繪」を描き出す様になつて、始めて彼の本領を發揮しまし
た。構圖が氣が利いて、色彩が生きて、奔馬空を行く様な想を表はす
ことになりました。

おもちゃ繪と申しますと、世間の人は子供の遊びだから好い加減
に描いて置けばよいと思ふかも知れませんが、芳藤は一生懸命でした。
子供の遊びを作るといふ意ではなくて畫師として畫を製作するとい
ふ意氣込で幾度も訂正をしたといふ話があります。又切組細工

などは他の人の描いたものは組上げて見ると必ず何かの部分(部分)が不足であつたり、寸法(寸法)が違つてうまく合はなかつたりするものですが、芳藤のに限つてその様なのは一つも有りませんでした。それは彼(彼)が其の畫を版にする前に自分で組み立て、見て宜しいとなつてからでなければそれを版(版)元に渡さなかつたのだ相(相)です。

彼は實際(實際)江戸つ子で、淺草北三筋町五十七番地(五十八番地)とあるものもある)に住み、本名を西村藤太郎と云つてゐました。子供が大好きなお爺(お爺)さんで平常でも子供を對(對)手にして遊んでゐたこと、思ひます。そして明治廿何年(何年)かに死んだのだと申(申)しますが、はつきりしません。お墓(お墓)は富坂上の或るお寺(お寺)にあるといひますけれど、まだ苔(苔)を掃つても見(見)ません。

また外(外)に「おもちや繪」の趣味とか、「おもちや繪」と時代の生活とか、「おもちや繪」と現今の幼年畫雜誌とかいふ問題が残つて居りますが、餘り長くなりま(ま)すから此處に筆を置(置)きます。餘は同好の研究(研究)にお願(願)ひ致(致)しませう。

□挿繪に就いて

猿若町夜景——立齋廣重筆

江戸名物の一である、歌舞伎芝居の三座の並んでゐた、猿若町一丁目、二丁目、三丁目の月下の光景(光景)を描(描)いたのである。畫面の右側の端が森田座であるから、此處が三丁目、向ふに順に二丁目の市村座、一丁目の中村座となる、即ち待乳山の聖天を後にして、淺草の觀音の方に向つて立て見た所である、古くは左側の、一丁目と二丁目とに操座があつたのであるが、此畫の出版せらるゝ頃は、無くなつたのである。さて此畫には(辰九)の檢印があるから、安政三年以降に出たのである。安政三年より前の辰九は弘化元年であるが、其時(時)には三丁目と森田座ではなく、河原崎座といつてゐた、そして安政二年の大地震に、三芝居とも崩壊し、且つ類焼した、併し三年の三月には先づ市村座の普請(普請)が成り、同月三日初日にて一番目「鶴松扇會我」二番目「夢結蝶鳥追」を興行し、四月十四日より中村座の新築落成と共に「一曲寶子會我」を興行した、次に三丁目の河原崎座は、森田座の槽を再興し、五月十五日より「新舞臺いろは書初」を上演したのである。此處より劇場建築に一紀元を劃したのであつた、それは梁の組方が變へられたので、市村座が最初に設計したのであつた。其處で此圖は安政三年に猿若町の三座が揃つたものを寫したことになるのである。

此圖の成りし三年と二年前には、ペルリが浦賀へ來航し、一年前には番書調所などが出来る頃であるから、藝術の上にも、西洋文明の波動を蒙つて國芳なども、水彩畫風の錦繪を作つてゐるから、廣重が此の圖に月光の陰翳を地上に描いたのも、敢て怪しむに足らぬ、寧ろ時代の風潮を明らかに現はしたものと謂つて可いである。



ウキスラーと版畫

野口米次郎

「浮世繪の西洋に於ける影響」といふ問題は日本人側からは非常に興味を唆(唆)かす、評者(評者)に確固たる智識と藝術上の經驗の無ければ無い程讀むと愉快な論文を担(担)上げる)によると何んの某は浮世繪師の某を眞似たのであると判を押したやうに明言する。僕自身も屢々そうゆう評者の一人であつた場合を持つて居た。如何にもそれは面白い批評的遊戯である——實際に於て遊戯以上の價の無い場合が多いのを遺憾とする。高安月郊氏——我々友人中で最も鋭敏(鋭敏)でしかも常に確實な藝術上の觀察を持つて居る一人であると僕は思つて居る——も本誌上で「廣重と洋畫」の稿中に特にウキスラーの上に投げた廣重の影響を論じられて居る。僕も嘗て月郊氏と同様のことを英文で書いて倫敦のアカデミー誌上で發表した。其時僕はウキスラーを廣重の模擬者(僕はそうゆう工合には書かなかつたと記憶しては居るけれども)だといつたと早合點したアカデミーの讀者が多少あつて、其一人は著名な畫家(特にエツチングで)でウキスラーの友人であり又ウキスラーの傳記を書いた男として知れて居るジョセフペンネルであつた。このペンネルは僕が數年前倫敦に顯はれると早速僕に手紙を送つて茶をする日の午後(午後)に飲みに來て呉れと招待した。其手紙に其日の僕の合(合)ひ客は畫家クローゼン(Clausen)であると書添へてあつた。このクローゼンは僕が近代畫家中で可なり尊敬して居る人なので僕は彼を個人的に知ることが出来るのを愉快に思つた——クローゼンに關して書くことが随分あるが此